

2022年度 君に薦める一冊の本



「君に薦める一冊の本」とは、先生方から学生の皆さんへの推薦図書です。先生方の心の琴線にふれた図書や、学生生活を送る上で役立つ図書、教養を深める図書など今年度も多数の図書を推薦していただきました。

勉強やクラブ・サークル活動などで忙しい日々の合間に是非手に取ってみて下さい。

皆さんの豊かな人格形成に役立つことを願っています。

大阪工業大学 図書館
2023年3月31日 発行

ご推薦いただいた先生

| | | |
|-------------|--------------------|-----|
| 建築学科 | 吉田 哲 先生 | 3-4 |
| 電子情報システム工学科 | 廣芝 伸哉 先生 | 5 |
| 電子情報システム工学科 | 川上 雅士 先生 | 6 |
| 応用化学科 | 村田 理尚 先生 | 7 |
| 総合人間学系教室 | 川田 進 先生 | 8 |
| 総合人間学系教室 | 大塚 生子 先生 | 9 |
| 総合人間学系教室 | 瀧川 宏樹 先生 | 10 |
| データサイエンス学科 | 濱田 悦生 先生 | 11 |
| 情報システム学科 | 雨宮 徹 先生 | 12 |
| 情報システム学科 | 黒川 尚彦 先生 | 13 |
| 情報メディア学科 | 田岡 育恵 先生 | 14 |
| 知的財産研究科 | 北代 真一 先生 | 15 |
| 教育センター | 安達 照 先生 | 16 |
| 教育センター | 平野 裕一 先生 | 17 |

『ぱびろにくす』にご寄稿いただいた先生

117号

| | | |
|----------|--------------------|-------|
| 総合人間学系教室 | 大塚 生子 先生 | 18-19 |
|----------|--------------------|-------|

118号

| | | |
|-----------|--------------------|-------|
| 都市デザイン工学科 | 田中 一成 先生 | 20-21 |
|-----------|--------------------|-------|

119号

| | | |
|-------------|--------------------|-------|
| システムデザイン工学科 | 小林 裕之 先生 | 22-23 |
|-------------|--------------------|-------|

推薦いただいた図書は各キャンパス図書館の
「君に薦める一冊の本」コーナーに展示しています。
スタッフまでお気軽にお尋ね下さい。

建築学科

吉田 哲 先生 推薦



『永遠のディーバ
—君たちに明日はない4—』
著者：垣根 涼介 / 新潮文庫刊

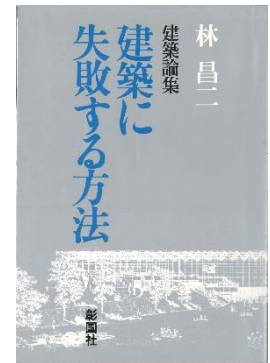
| | 請求記号 | 資料ID |
|------|----------|----------|
| 大宮本館 | 913.6 K | 91221583 |
| 梅田分館 | 913.6 K | 97220725 |
| 枚方分館 | 080 S | 98221173 |

わかりやすい成功を嫌い、歌うことをそれでもつづけた龍造寺の圧倒的なタフネスと、託されたことども、そして何より途切れなかったその情熱…のもろもろをすべて脇からつなぎ、回収される伏線のお涙頂戴にまんまとはめられる。へとへとにつかれ、それでもそれをつづけるのかを自問するとき、湧き出る熱いなにかと共に元気になれる掌編。



建築学科

吉田 哲 先生 推薦



『建築論集 建築に失敗する方法』
著者：林 昌二 / 彰国社



| | 請求記号 | 資料ID |
|------|----------|----------|
| 大宮本館 | 520.4 H | 10704020 |
| 梅田分館 | 520.4 H | 19807090 |
| 枚方分館 | 520.4 H | 98221178 |



博士課程1年、思うようにコトの運ばない時期に手にした1冊。
読者を惑わせることを旨とするかのような論考に若干辟易して
いた当時、建築にまつわる思考はこれほど平易なことばで語れ
るのだ、と意を強くしたことを覚えている。

今にして思えば難解な用語はそれでしか示しえない事象や思
考があることも了解しながら、それでもそこに閉じない回路を
持つことをその後の自身の進路と定める契機となった1冊。



廣芝 伸哉 先生 推薦



『虚数の情緒 中学生からの全方位独学法』

著者：吉田 武 / 東海大学出版会



| | 請求記号 | 資料ID |
|------|--------|----------|
| 大宮本館 | 410 Y | 10004868 |
| 梅田分館 | 410 Y | 72200055 |
| 枚方分館 | 410 Y | 80401520 |

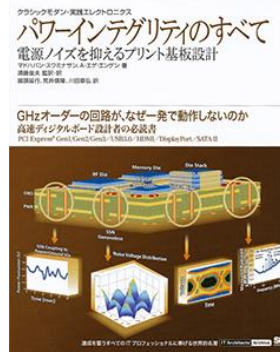


大学に入って戸惑うのは、高校とは違う数学の難解さでしょうか。特に虚数の出てくる複素解析も線形代数もいきなり抽象的すぎて、ついていけないと思う事も多いでしょう。

なぜ難解な数学を学ぶのか？大学で勉強する意味は？それはこの本の巻頭言に集約されていると私は思います。1000ページを超える本書をすべて読んでとは言いませんが、巻頭言だけでいいので見てください。巻頭言を読んでどう行動するか？それは、あなた次第！



川上 雅士 先生 推薦



『パワーインテグリティのすべて
電源ノイズを抑えるプリント基板設計』

著者：Madhavan Swaminathan、A. Ege Engin

監修：須藤 俊夫

原著・翻訳：須藤 俊夫、國頭 延行、荒井 信隆、川田 章弘
/ 翔泳社

こちらの図書は他大学から
相互貸借依頼で取り寄せが可能です!

会社員時代の最初の仕事が通信機器の電源設計であり、大学で学んだ学問と電子機器の設計現場でのノウハウにギャップを感じ苦しんでいた。その時期にこの本と出会った。

この本を読んでから、仕事でそれまでは分からなかったことが分かるようになり、新人からステップアップする手助けとなった一冊。



応用化学科

村田 理尚 先生 推薦



『海賊とよばれた男(上・下)』
著者：百田 尚樹 / 講談社

| | 請求記号 | 資料ID |
|------|----------------|----------|
| 大宮本館 | (上)913.6 H 上 | 91121762 |
| | (下)913.6 H 下 | 91121763 |
| 梅田分館 | (上)913.6 H 上 | 97220239 |
| | (下)913.6 H 下 | 97220240 |
| 枚方分館 | (上)913.6 H 上 | 98120936 |
| | (下)913.6 H 下 | 98120937 |

本書は出光興産株式会社の創業者である出光佐三氏をモデルとして、会社が成長してゆく物語が描かれています。第10回本屋大賞を受賞し、数百万部のベストセラーとなっているそうです。読んだ人も多いかもかもしれませんね。

日本人としての誇りをもって行動し、会社がうまく行っていない時は、過酷な仕事も受けて乗り越え、会社を大企業へと成長させていく力強い姿に感動しました。これから会社で働くことを考えている学生さんは、ぜひ読んでみて、本書に勇気づけられてほしいと思います。



総合人間学系教室

川田 進 先生 推薦



『ロシア点描』
著者：小泉 悠 / PHP研究所

| | 請求記号 | 資料ID |
|------|-----------|----------|
| 大宮本館 | 302.38 K | 91220557 |
| 梅田分館 | 302.38 K | 97220238 |
| 枚方分館 | 302.38 K | 98220327 |

工学部「国際関係論」の授業では、多くの受講生から「なぜロシアは戦争を始めたのか」「プーチンは独裁者なのか」といった質問が多く寄せられている。本書はこれらの疑問に答える一冊である。キーワードは地下空間、インターネット、トルコなど。



大塚 生子 先生 推薦

『カラマーゾフの兄弟』
原作：ドストエフスキー
著者：岩下 博美 /
講談社まんが学術文庫

| | 請求記号 | 資料ID |
|------|----------|----------|
| 大宮本館 | 726.1 D | 91220553 |
| 梅田分館 | 726.1 D | 97220212 |
| 枚方分館 | 080 K | 98220503 |



『カラマーゾフの兄弟
(上・中・下)』
著者：ドストエフスキー
訳：原 卓也/
新潮文庫刊

| | 請求記号 | 資料ID |
|------|--------------|----------|
| 大宮本館 | (上)983 D 上 | 91220550 |
| | (中)983 D 中 | 91220551 |
| | (下)983 D 下 | 91220552 |
| 梅田分館 | (上)983 D 上 | 97220213 |
| | (中)983 D 中 | 97220214 |
| | (下)983 D 下 | 97220215 |
| 枚方分館 | (上)080 S 上 | 98220504 |
| | (中)080 S 中 | 98220505 |
| | (下)080 S 下 | 98220506 |



書名くらいは誰もが聞いたことのある『カラマーゾフの兄弟』ですが、長編である上難解なため、読破には根気が必要とされています。しかし同時に、世界最高の文学作品の一つとされ、多くの文学・芸術・思想に大きな影響を与えてきました。

ロシア文学者・亀山郁夫が「若い世代でも知的にすぐれた層はみな知っています」と述べ、小説家・村上春樹は「世の中には二種類の間がある。『カラマーゾフの兄弟』を読破したことのある人と、読破したことのない人だ。」と評するほど、現代日本においても強い影響力を与え続けているこの作品。是非読破してもらいたいです。が、「ハードルが高い！」という人は、まずはまんが版であらすじを頭に入れてから挑戦するのが良いかもしれません。



瀧川 宏樹 先生 推薦



『フランケンシュタイン』

著者：シェリー

訳：小林 章夫 / 光文社古典新訳文庫

| | 請求記号 | 資料ID |
|------|----------|----------|
| 大宮本館 | 933.6 S | 91101390 |
| 梅田分館 | 933.6 S | 97220739 |
| 枚方分館 | 080 K | 98221192 |

1818年発表のイギリスのゴシック小説で、その名前を誰もが一度は聞いたことがあるでしょう。ただ、こめかみにねじが刺さったつぎはぎの顔をした怪物の名前がフランケンシュタインというのはよくある誤解です。フランケンシュタインは、怪物を創り出した博士の名前で、怪物に名前はありません。名前すら与えられずこの世に生み出された怪物の苦悩がこの作品では描かれており、怪物の不条理な人生に同情を感じる読者も多いと思います。

怪物の立場に立って読んでみると、新たな視点を発見できるかもしれない一冊です。



データサイエンス学科

濱田 悦生 先生 推薦



『新版 国土が日本人の謎を解く』
著者：大石 久和 / 産経新聞出版

| | 請求記号 | 資料ID |
|------|---------------|----------|
| 大宮本館 | 361.42 0 | 91220545 |
| 梅田分館 | 361.42 0 | 97220216 |
| 枚方分館 | 081 S S-025 | 98220507 |

日本から世界を眺めているとき、無意識に自分と同じ人たちが世界にいるかのように思ってしまうかも知れませんが、実は日本人の感覚は他の国の人たちの感覚とはかなり違うのです。古くは縄文時代からの歴史の長さもありますが、日本の国土が日本人の感覚を育んだということを、この本は色々なデータを基に検証しています。

特に序章の「日本人」は何を経験し何を経験しなかったか、は秀逸ですので、ぜひ読んでみて下さい。「人為の国」と「天為の国」の違いが分かると、現在の日本がよりはっきりと見えてくるでしょう。



雨宮 徹 先生 推薦



『清兵衛と瓢箪(「小僧の神様 他十篇」所収)』
※大宮本館のみ「清兵衛と瓢箪・網走まで」新潮文庫刊 所収
著者：志賀 直哉 / 岩波文庫



| | 請求記号 | 資料ID |
|------|----------|----------|
| 大宮本館 | 913.6 S | 91102262 |
| 梅田分館 | 913.6 S | 97220724 |
| 枚方分館 | 080 I | 98221146 |



12歳の清兵衛は、瓢箪を加工し美しく仕上げることに熱中しているが、父親は常日頃から彼の趣味を苦々しく思っている。ある日、清兵衛が授業中に瓢箪をこっそり磨いているのを見つけた教師はそれを取り上げ、家に報告をしてしまう。激昂した父親は家に吊るしてあった彼の瓢箪をすべて叩き割ってしまう。教師に取り上げられることで残った唯一の瓢箪は、転々と人の手に渡り、最後にはとてつもない高値で引き取られていくのだが、そのことを清兵衛自身は知らない。そして今、彼は瓢箪のことを忘れ、絵を描くことに夢中になっている…

最初に読んだのは10代の頃だったのですが、30代になって生まれた息子に「清兵衛」と名付けようかと思ったほど、この作品は私の心を捉え続けて来ました。

何度読んでも、しみじみとした心持ちになるのですが、それは清兵衛に、創作物を通して人に認められたいという邪念が無く、ただ美しいものを生み出したいという欲求のみで生きているからでしょう。この清兵衛の潔さは、邪念にまみれがちなわれわれのあり方を見直させてくれる力を持っています。

10分もあれば読み終えることのできる短編です。
どうぞ一度手に取ってみてください。



黒川 尚彦 先生 推薦

日本の礼儀作法
宮家に伝わる7つのおしえ
竹田恒泰



『日本の礼儀作法
宮家に伝わる7つのおしえ』
著者：竹田 恒泰 / マガジンハウス新書

| | 請求記号 | 資料ID |
|------|-------------|----------|
| 大宮本館 | 385.9 T | 91220882 |
| 梅田分館 | 385.9 T | 97220312 |
| 枚方分館 | 081 M 006 | 98220581 |

礼儀は堅苦しいものではなく、あなたの人生をよりよくする武器です。この本では7つの作法が学べます。食事、動作、言葉、敬語、付き合い、お金、服装。1つだけ例を挙げれば、敬語は敬意を抱く人に対して用いる言葉ではないのです。

この本の知恵は今のあなたには無縁かもしれませんが、社会に出たとききっとあなたの人生を好転させてくれるはずです。類は友を呼ぶと言うように、礼儀を身につければ、それ相応の人を呼び寄せます。この本を読み、先人が築いてきた知恵を身につけ、自分の人生を豊かなものにしませんか。



情報メディア学科

田岡 育恵 先生 推薦



『これは、アレだな』

著者：高橋 源一郎 / 毎日新聞出版社

| | 請求記号 | 資料ID |
|------|----------|----------|
| 大宮本館 | 914.6 T | 91220721 |
| 梅田分館 | 914.6 T | 97220266 |
| 枚方分館 | 914.6 T | 98220485 |

「こんなことは初めて！」と思う事件が起こった時、ふと過去に起こったこととの類似性に気づくことがあります。本書は著者が気づいた、そのような比較のあれこれを紹介しています。たとえば、現在のAIを題材にした小説と『フランケンシュタイン博士』、『鬼滅の刃』とグリム童話や宮沢賢治など。そこから、現在の状況について考えるいろいろなヒントがあるように思えます。



北代 真一 先生 推薦

『問題解決に効く
「行為のデザイン」思考法』

著者：村田 智明 /
CCCメディアハウス



| | 請求記号 | 資料ID |
|------|--------|----------|
| 大宮本館 | 757 M | 91151277 |
| 梅田分館 | 757 M | 71602321 |
| 枚方分館 | 757 M | 98160324 |

- ・「表紙」を見た瞬間に、これだ！ と思える本です。
- ・「デザイン」をスッと体の中に取り込むことができるはず。
- ・気が付けば、自分の周りの世界が今までと違った見え方をしてくるのでは？
- ・グループで考える授業にもきっと役に立つと思います。
- ・普段使わないところの頭と目が鍛えられますよ♪



教育センター

安達 照 先生 推薦



『今日の芸術』
著者：岡本 太郎 / 光文社文庫

| | 請求記号 | 資料ID |
|------|--------|----------|
| 大宮本館 | 704 O | 91220923 |
| 梅田分館 | 704 O | 97220354 |
| 枚方分館 | 080 K | 98220639 |

芸術家の岡本太郎氏による「芸術」についての書籍ではありますが、この「芸術」という言葉を、各自の人生の問題に関係する重要な言葉に置き換えて読んでもらっても面白いと思います。この本は68年前に書かれたものですが、最近、新装版が出ており、その序文に、私の尊敬する芸術家の横尾忠則氏による紹介が入っております。その興味深いところを下記に引用させていただき、推薦文とさせていただきます。

「当時『今日の芸術』は大ベストセラーになって、芸術を愛し、芸術を志す者は大抵目を通したはずだ。太郎さんが何を言っているか知らないが、もう一度あの時の興奮を取り戻したいとぼくは思っている。いやもしかしたら現在読む方がもっと新鮮かも知れない。文庫本に上梓された最初の読者の一人になりたいとぼくは今から楽しみにしている。」



教育センター

平野 裕一 先生 推薦



『物理学はいかに創られたか
(上巻・下巻)』

著者：アインシュタイン、インフェルト
訳：石原 純 / 岩波新書

| | 請求記号 | 資料ID |
|------|----------------|----------|
| 大宮本館 | (上)420.2 E 上 | 91220975 |
| | (下)420.2 E 下 | 91220977 |
| 梅田分館 | (上)420 E 上 | 97220440 |
| | (下)420 E 下 | 97220377 |
| 枚方分館 | (上)081 I 50 | 98220690 |
| | (下)081 I 51 | 98220691 |

物理学というと難解な数式が書かれている本を想像するのではないのでしょうか？しかし、この本は違います。数式はまったくなく、わかりやすい文章で物理学の考え方が記されています。しかも著者の一人があのアインシュタイン。実はこの本は、私が高校生の頃の夏休みの課題図書でした。高校生だった私にとっては、少し難しく感じたものでしたが、今改めて読んでみると名著と言わざるを得ません。物理に興味のある学生の皆さん！是非読んでみてください！



大塚 生子 先生 推薦

『一九八四年(新訳版)』

著者：ジョージ・オーウェル著

訳：高橋 和久 / 早川書房



| | 請求記号 | 資料ID |
|------|----------|----------|
| 大宮本館 | 933.7 0 | 91211892 |
| 梅田分館 | 933.7 0 | 97210475 |
| 枚方分館 | 080 H | 98130210 |

4月—大学ではまた、新しい1年が始まります。

「新しい出会い」「新しい生活」「新しい自分」「夢」「希望」「飛躍」「前進」—そんなポジティブなことがたくさん浮かびますね。

そんな素敵な季節の折りも折り、今回私は読後感が決して良いとはいえないジョージ・オーウェル『一九八四年』をおすすめします。

『一九八四年』は1940年台末に書かれた、その名のとおり1984年のロンドンを舞台にしたディストピア（ユートピアの反対）SF小説です。世界54カ国の著名な作家100人の投票で決められた「史上最高の文学100」などにも選出され、現在でも思想や文学などの分野に大きな影響を与えている近代文学の傑作のひとつだといわれています。

本書は一言でいうと、「ビッグブラザー」というトップを擁する党によって民衆が管理・支配される社会のお話です。街や職場、家庭内のいたるところに「テレスクリーン」と呼ばれる双方向テレビジョンやマイクが仕込まれ、市民の言動は常に監視されています。ビッグブラザーは絶対的存在であり、党が「今日から2+2=5だ」と言えばそれが「真実」とされ、歴史までもが改ざんされます。そんな社会では、天気予報は決してはずれません。簡単なことです。天気予報が外れて今日雨が降ったら、昨日の記録をすべて「雨だと予報した」ことにすれば良いのだから。

【次のページへ続く】

このような社会では、民衆に疑問を抱かせないことが肝要です。党がいうことを無条件に信じる人間を作るためには、何が必要だと思いますか？

この社会では「ニュースピーク」（新語法）が適用されます。たとえば「good」に対して「bad」という表現は不要で、「ungood」で表現できるし、強意も「plus-」や「doubleplus-」という接頭辞をつけて、「非常に良い」なら「plusgood」、「最高に良い」なら「doubleplusgood」と表現できる—このように、語彙の数がどんどん減らされ、人々は反政府的な思想を書き起こす方法を失うのです。人間はことばを通してしか思考できません。ことばを失うことは、思考できなくなることと同義です。

そして、現代の我々にもおそろしく既視感のあるのが、自分で思考しなくなり、党の「正義」を絶対的に信じるようになった人間による、違反者への非難、密告です。体制に疑問を抱き始めた主人公はそんな社会をどのように生きるのでしょうか。

現在の先進諸国には、そんな見えやすい「絶対的権力者」はいません。ですが、「何が正しいか」「どう感じる『べき』か」という、従うべき見えない集団圧力が存在し、違反すると自らを「正義」の代行者と考える輩からバッシングを受け、下手をすると社会的に抹殺される。それを恐れて今度は我々自身がいつの間にかその「正義」に異議を唱えることをやめ、従うことを覚える—これこそ、相互監視社会や無思考の横行といえるでしょう。オーウェルの描いたSFの世界は、もしかしたらそれとわからない形でフィクションではなくなっているのかもしれない。

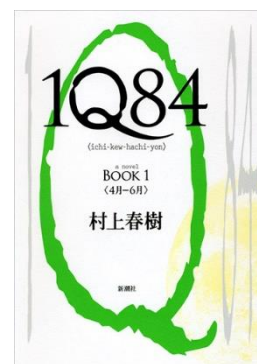
「 $2 + 2 = 5$ 」には「そんなわけないだろう」と笑えるみなさんですが、大学の「えらい教授」が言ったことにも同じように反発できますか？あるいは「権威ある」ニュースには？新学期は本当に、みんなのこのような「希望に満ちあふれた新しいスタート」ですか？

思考することばを持ちましょう。「当たり前」を疑いましょう。そのために、本をたくさん読みましょう。それができることこそが、主人公ウィンストン・スミスが願った自由な社会なのです。

※図書館報『ぱぴろにくす』117号にご寄稿いただきました。

都市デザイン工学科

田中 一成 先生 推薦



『1Q84 book1～book3』
著者：村上 春樹 / 新潮社文庫刊

| 大宮本館 | 請求記号 | 資料ID |
|-----------|---------------|----------|
| (book1前編) | 913.6 M 1-1 | 91171015 |
| (book1後編) | 913.6 M 1-2 | 91171016 |
| (book2前編) | 913.6 M 2-1 | 91171017 |
| (book2後編) | 913.6 M 2-2 | 91171018 |
| (book3前編) | 913.6 M 3-1 | 91171019 |
| (book3後編) | 913.6 M 3-2 | 91171020 |

| 梅田分館 | 請求記号 | 資料ID | 枚方分館 | 請求記号 | 資料ID |
|---------|-------------|----------|---------|-------------|----------|
| (book1) | 913.6 M 1 | 97220159 | (book1) | 913.6 M 1 | 98090165 |
| (book2) | 913.6 M 2 | 97220160 | (book2) | 913.6 M 2 | 98090166 |
| (book3) | 913.6 M 3 | 97220161 | (book3) | 913.6 M 3 | 98100057 |

君に薦める一冊の本の原稿依頼が来たとき、めんどろな原稿を書くのが億劫で、学生も誰も読みたくない？本しか思い浮かばないけれどそれでもいいかという話をしました。あたりまえですが担当の方は慣れていただけあって（メールのやりとりだけで原稿の文字数になる頃）誰も読みたくなかったエピソードも面白そうなのでそこも含めて書いてほしいと、まんまとのせられました。

研究室に立ち寄る学生、院生たちが、ちょっとだけと言って借りていく本はたくさんあります。読んでみろよといって数ページ読んでもらうバシュラールやハイデガーやミンコフスキーだったり、専門書の人間の空間やフーリエ解析やSPSSの解説だったり、大学図書館から薦めるような素敵な本はたくさんあるような気がします。

【次のページへ続く】

この依頼を受けてから、申し訳ないことですが18年目になって初めてきちんと「ぱぴろにくす」を読みました。多くの先生が図書の紹介だけでなく、体験談やアドバイスなど面白いお話をいろいろな企画の中でされていました。懐かしい先生もいました。

おそらく、この自分の文章は多くの学生、院生も教職員も読まないかもしれません。一緒にしないでほしいという方には誠に申し訳ありません。そう考えると、やはり好きなことを勝手に書こうかなと原稿メ切間際になって思いなおしました。思いなおしたとはいっても、まだ一文字も書いていませんでしたが。

この原稿依頼を最初に聞いて、真っ先に思いついた本を結局、薦める本にしようと思います。この作者も本も、知らない人はいないと思います。

薦める一冊の本（ほんとうは三冊、文庫本は6冊）ですが、かならず読む必要はないと思っています。きっとわかって頂けると思いますが、読みはじめてみて途中でやめてもいいし、何度も同じところを読んでも、10年後に読むことにしてもいいと思います。

なぜ言うとおりにばかりしなければならないのか考えつつある人（言われたとおりに考えなさい、言われたとおりに計算しなさいと）、あるいは、工学には実は決まった答えはありません、これから皆さんが探すのです、と言われてさてどうやってと思った人に見てほしいと思います。

例えばですが、問題1が満点なら理系、問題3が満点だったなら文系、そのあとで問題7が満点なら工学分野と言われて進学してきた人、大学に来てからほんとうにそうだったのか疑問に思った人に。正しい本の読み方も受験の問題文の読み方も知っていて、将来はやりたいことができる会社に就職（やりたいことは選択制）と考えてきて、でも疑問を持ってはいけないのかと一瞬考えたことがある人に。偉そうなことは言えませんが、ジタバタするしかたを悩むことができる本かと思います。

それと、物語中の交通量や橋脚の構造や非常階段や配電盤の位置などを考えてしまうわれわれの分野…以外の分野の学生、院生の皆さんが、どのように読むかという興味も少しだけあります。

※図書館報『ぱぴろにくす』118号にご寄稿いただきました。

システムデザイン工学科

小林 裕之 先生 推薦



『タイム・シップ(新版)』
著者：バクスター・スティーヴン
訳：中原 尚哉 / 早川書房

| | 請求記号 | 資料ID |
|------|----------|----------|
| 大宮本館 | 933.7 B | 91220905 |
| 梅田分館 | 933.7 B | 97220343 |
| 枚方分館 | 081 H | 98220623 |

工大の学生ならきっとSFは好きですよ?と、都合よく仮定して自分の趣味でご紹介するのが本書「タイム・シップ」“The Time Ships”です。なんと本書、一応、あの、H.G.ウェルズ著「タイム・マシン」“The Time Machine”の公式(?)の続編とされています。そして作者はあの A.C.クラーク大先生(←知ってます?)の後継者とも言われているスティーヴン・バクスター先生。それだけでいやが上にも期待が高まりますが、……面白いです。控えめに言っても最高に。★5つ。

ストーリーは今回このコーナーで私が本書を紹介することにした目的には関係ないので簡単に。前作(The Time Machine)でやらかした失敗を挽回すべく、主人公の慌てん坊の科学者が、文明が衰退した西暦802701年に「戻ろう」とします。ところがうまく行かず、西暦657208年に着いてしまいます。しかもその世界は前回の旅とは全く異なる時間線上にある、存在しなかったはずの超科学文明社会。番狂わせが続く中、そこで出会った世話役(あるいは飼育係)の一人と共に今度は生まれ故郷の19世紀へと向かい……、とこの辺までが全体の1/4くらいです。(あとは読んでのお楽しみ。)

【次のページへ続く】

さて、私が本書を取り上げた真の目的はジャンル紹介です。SFと言っても非常に幅が広いのですが、本書の作者スティーヴン・バクスター先生はいわゆる「ハードSF」という分野が得意な作家です。ハードSFというのは、SFの中でも特に科学・技術・数学などの描写にうるさい分野で、これが理系人間の琴線に触れるのです。最新のサイエンス・テクノロジーが揺るぎない「原点」として存在し、そこから作者の想像力で世界を「外挿」して作られるお話です。一見あり得ないような科学技術であっても決して魔法扱いで誤魔化さず丁寧に作り込みます。ものによっては大卒程度の「学力」がないと何が面白いのかわからない、いや、言ってる意味すらわからない、という作品もあり、その厳しさを自虐的に楽しむのも一興です。当然執筆するのも凡人には無理なので、多くの作家が1つや2つの学位を有しており、前職が（あるいは現職の）ホンモノの物理学者だったり天文学者だったりエンジニアだったりしますバクスター先生然り。

ただそれ故にマニアック過ぎて気軽にお薦めしにくいというのも事実。そこで本書の出番です。この作品はそれほど「ハード」ではなく、たぶん誰でもふつうに楽しめます。そもそも物語は主人公である19世紀の科学者の一人称視点で語られるため、理解するだけなら20世紀の科学技術の知識すら不要です。しかしそこはバクスター先生の作品ということで抜かりはありません。随所にしっかり現代でも通じる「ハード」な部分が散りばめられています。

この作品を読んでみてハードSF的な要素に魂が揺さぶられたらきっと貴方はこっちの世界の住人です。ぜひもっとカタめの作品に手を出してみてください。ついでとってはナニですが、今まであまり興味がなかった専門分野に興味を持つきっかけにもなっておトク感もありますよ！（私自身そうでした。）

※図書館報『ぱぴろにくす』119号にご寄稿いただきました。



常翔学園

みらいをつくる つたえる まもる。

大阪工業大学

OSAKA INSTITUTE OF TECHNOLOGY